

神奈川県議会議員

たかはし
栄一郎
 かながわ自民党
 新人議員の
 県政レポート

発行所

たかはし栄一郎事務所

横浜市保土ヶ谷区川辺町6星川プラザマンション1F

電話: 045-337-1234 <http://takahashi.eco.to>

2020年夏季オリンピック・パラリンピック開催地が東京に決定し、本県でも観光やサービス業を中心に高い経済効果が予想され、県経済の大きなチャンスと期待されています。今回の東京五輪は震災からの復興を開催理念に掲げ招致活動を進めてきましたが、震災から約2年半が経過した今、被災地への関心が薄れることのないように、復興支援も引き続き行っていきたいと思えます。

今回は、9月10日から12月20日までの日程で開催されている神奈川県議会平成25年第3回定例会の本会議において行った一般質問を中心にご紹介をさせていただきます。

 9月19日に開催された本会議一般質問において
 医療・産業・教育分野について質問しました

○総合診療医の養成について○

急速に進む超高齢化にむけて、県医療も先見性を持った対応が求められています。医療の高度化に伴い、医師の専門分野が細分化されていますが、高齢化の進んだ現代社会では、在宅医療や介護を必要とする患者や一人の患者が複数の病気を持つ事は珍しくなく、特定の臓器や疾患に限定すること無く幅広い視野で患者を診断する医師、いわゆる「総合診療医」が必要です。

総合診療医は、従来の領域別専門医が「深さ」を特徴とするのに対し、「扱う問題の広さと多様性」が特徴であり、地域の医療・介護等さまざまな分野における包括ケアのリーダー的役割も期待されています。

県内4医科大学ではいち早く総合診療医養成に問題意識を持っており、各大学の特色や地域性を活かした取り組みを行うとしていますが、養成プログラムの充実には地域の診療所や病院・介護福祉施設等の協力を得て、学習の場を地域へ拡大する事も重要です。

そのためには県としても主体性を持って取り組み、大学や高度拠点病院のみに依存するのではなく、地域の中小病院等が連携した「総合診療医養成神奈川モデル」構築のために積極的な対策が求められていると考えます。

そこで、知事に県としての認識と今後の取り組みについて尋ねたところ、知事からは、「本年3月に策定した『県保健医療計画』で、県内医科大学等と連携して、総合診療医の養成に踏み込むことにした。国の動向を注視しつつ、年内を目途に県内4医科大学との間で総合診療医の養成に向けた検討を始めたい。県として一番大事な『人材を育てる』という強いメッセージを発信し、4医科大学と連携し、総合診療医養成にあらゆる面で積極的に取り組んでいきたい。」という前向きな答弁を引き出しました。

しかしながら、現時点ではなかなか具体的な取り組みが進んでいない事もわかりました。総合診療医は、患者一人一人の全身を診て治療をしていく『昔の町医者』の様な頼れる存在であり、養成にむけて大学や国にまかせきりでなく、県が何よりも主体的に、明確な目標を定めて取り組んでいこう、これからもしっかりと要請を続けていきたいと思えます。



○観光連携の取り組み促進について○



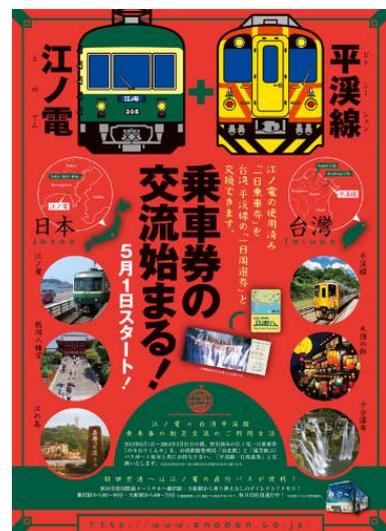
政府は経済成長にも貢献するとして日本を訪れる外国人観光客を増やす「観光立国」を目指し、様々な施策に取り組んでおり、今回の2020年オリンピック・パラリンピック東京開催は、大きな追い風になることが期待されています。



オリンピック・パラリンピックを契機として、日本を訪れる外国人観光客をいかに本県に呼び込むかがこれからは重要となりさまざまな取り組みを行う必要があります。

県内ではインバウンド観光の取り組みの一つとして、江ノ電と台湾の観光鉄道として有名な平溪線との間で観光連携協定が締結されました。

この協定により、江ノ電の使用済み一日乗車券を台北駅または瑞芳駅に持参すると「平溪線一日乗車券」に、反対に平溪線一日乗車券を江ノ電の藤沢・江ノ島・鎌倉の各駅に持参すると「江ノ電一日乗車券」を無償で提供するサービスが行われており、8月末時点で1200人近くが利用しています。



さまざまな観光に特化した交流が進むなか、江ノ電と平溪線の観光連携は全国的に見ても先駆的な取り組みであり、双方にメリットがあるだけでなく、「神奈川に行ってみよう」という“きっかけ”の一つになるのではないのでしょうか。

そこで、県としてこうした観光連携の取り組み促進にどのように取り組むのか知事に尋ねました。



○インバウンド観光とは？○

インバウンドは「入ってくる」という意味の英語で、海外や多地域からの旅行者を、自分の地域や国に呼び込むことを指します。

県でも平成21年に「神奈川県観光振興条例」を制定し「観光立県かながわ」の実現を目指し取り組んでいます。具体的には・・・

- ①文化芸術の人を引き付ける力を活かした新たなまちの賑わいづくりを目指す取り組み
- ②医食農同源の取り組みなど新しい分野と連携した観光の推進による「何度も訪れたい神奈川」の実現
- ③商店街観光ツアーの推進や観光まちづくり人材の育成による「観光で元気になる神奈川」の実現
- ④新たな観光の核づくり等による「が医工人をひきつける魅力あふれる神奈川」の実現

知事から、自らも今年7月に台湾平溪線を視察・乗車したとの報告があり、「平溪線から見る、土産物屋の佇まいやのどかな山々の景色は、大変素晴らしいものであり、こうした美しい風景を間近に見ながらゆっくりと走るところが、江ノ電とよく似ている。今回のような民間事業者の観光連携は、県としても大いに歓迎したい。今後は多くの観光客がそれぞれの地を訪れ、連携の効果が発揮できるよう、様々な機会を捉えてPRし、民間事業者の取り組みを後押ししていく。



今回の件に関して言えば、たとえば、江ノ電利用をきっかけとして神奈川県を訪れる台湾人のために、台湾語表記の神奈川観光パンフレットの作成配布など、民間事業者の声も聞きながら検討していきたい。」との答弁を引き出しました。

「たかはし栄一郎」県政レポート 配布ボランティアを募集しています！

①たかはし栄一郎の県政レポートをご近所等にポスティング
配布して下さるボランティアの方

②広報掲示板をご自宅等に設置して下さる方

* **ご協力頂ける方がいらっしやいましたら**

事務所までご連絡ください



県政に対する皆様のご要望を
お待ちしております!!

↓ご意見ご要望はこちらまで↓

たかはし栄一郎事務所

TEL:045-337-1234

FAX:045-337-1243

✉ takahashi.eiichirou@sky.plala.or.jp